

論壇

長期金利が上昇基調に

トランプ大統領就任が決まって、世界の金融市場が大きく動いた。為替レートは大幅な円安となり、株価も急上昇した。長期金利は世界的に上昇基調で、日本の長期金利(10年物の国債利回り)は、久しぶりにマイナス圏からプラスへと動いた。一方で、新興国の為替レートは軒並みに下落し、新興国からの資金流出がこれらの経済を打撃することが懸念されている。

日本経済は、こうした動きから

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

どのような影響を受けるのだろうか。今の段階では将来予想をするにはあまりにも不確定要因が多いが、トランプ大統領就任が日本経済にとっても大きな転換点になり得ることは確かだ。

この数年、日本経済にとつての重要課題はデフレからの脱却であ

が、ドイツなどの中核の国の経済は元気だった。当時は、日本だけがデフレだったのだ。大胆な金融緩和で、日本経済も変わりそうだった。

中国経済はチャイナリスクを抱え、厳しい経済状態に陥りつつあ

トランプ氏と日本経済

つた。ただ、そのための国際経済環境は必ずしも好ましいものではなかった。2012年の年末にはなかつた。2012年の年末にはなかつた。2012年の年末にはなかつた。

米国の回復は期待通りに進まず、金利引き上げのペースは鈍っている。欧州も、英国のEUからの離脱の国民投票結果や、イタリアなどの銀行の不良債権問題など、難しい問題が山積している。

トランプ大統領登壇は、こうした世界経済の雰囲気を変えようとしている。市場は変化を予測してあおり立てている。この原稿執筆時点で、円レートは110円を超える円安となり、株価も日経平均で1万8000円を超えている。長期金利もマイナス圏からプラスへと浮上している。少し専門的になるが、長期金利がプラス

ということば、市場が長期的に物価上昇と景気回復を織り込み始めたということだ。こうした状況がいつまで続くかはわからないが、これまでのところ、トランプ大統領の登場は日本のデフレ脱却の強力な援軍となっているのだ。

デフレ脱却へチャンス

トランプ氏が主張するような大胆な減税と歳出削減が本当に可能かどうかは不透明である。今起きている動きが今後も継続するとう保証もない。ただ、日本にとつてデフレからの脱却を進める大きなチャンスがやってきたことは確かだ。この機会を最大限に活用しなくてはならない。日本政府も消費税引き上げを延期するなど、足元をデフレ脱却集中期間としてい

る。まさに正念場である。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。